

令和4年度



「北白川だより」

学校評価 臨時号


令和4年9月15日

京都市立北白川小学校

校長 藤林 弘之

令和4年度 学校教育目標

『学び合い 高め合い 夢に向かって進む 北白川の子』  
～目標の実現に向け努力する意欲・態度と問題解決能力を培う～



御所花車

平素は本校教育活動の推進のためにご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、保護者の皆様にはお忙しい中、夏休み前の学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。学校評価は児童・保護者・教職員が共通の意識をもち、連携しながら教育活動を進めるために、それぞれの立場でこれまでの取組について見つめ直す手段の一つです。そして、この学校評価の結果から見えてくる課題について分析し、よりよい教育の在り方について考えていきたいと思っております。

なお、以下の考察では、A群とB群で「できている」、C群とD群で「できていない」と大きく2つに分けて分析しています。

本号では7月に行いました学校評価アンケートの結果をお知らせします。表面には＜学習面＞、裏面には＜生活面＞を載せています。表のAは「よくできている」 Bは「だいたいできている」 Cは「あまりできていない」 Dは「できていない」を示しています。

【前期 学習面】															
	児 童	A	B	C	D	保護者	A	B	C	D	教職員	A	B	C	D
①	がくしゅうのめあてがたっせいできて いる。	52.5%	38.3%	8.0%	1.2%	我が子は、学校で学んだことを身に 付けている。	51.1%	43.8%	4.4%	0.7%	確かな学力が身に付くように授業を工夫 して行っている。	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%
②	せんせいやともだちのはなしをよくき いて、かんがえている。	57.5%	35.4%	6.2%	0.9%	我が子は、人の話をしっかりと聞いて 考えることができている。	36.8%	47.1%	15.4%	0.7%	友だちや先生の話しっかりと聞いて考 える習慣をつけるように取り組んでいる。	47.6%	47.6%	4.8%	0.0%
③	じゅぎょうちゅうすすんでじぶんのかん がえをひょうげんしている。	40.7%	39.8%	15.9%	3.5%	我が子は、進んで自分の考えを話す ことができている。	37.5%	46.3%	15.1%	1.1%	授業中、子ども達が進んで自分の考えを 伝えるような授業づくりを心掛けている。	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%
④	よんだり、かいたり、けいさんしたりす るちからがみについている。	57.5%	33.0%	8.0%	1.5%	我が子は、基礎的な学力(読む・書 く・計算する)が見に付いている。	53.3%	39.3%	6.3%	1.1%	基礎的な学力(読む・書く・計算する)が 身に付くように取り組んでいる。	47.6%	52.4%	0.0%	0.0%
⑤	いえでじぶんからしゅくだいやがくしゅ うをしている。	52.8%	32.2%	12.1%	2.9%	我が子は、自分から家庭学習に取り 組むことができている。	36.8%	39.3%	21.7%	2.2%	家庭学習の習慣が定着するような働き かけを行っている。	23.8%	57.1%	19.0%	0.0%
⑥	すすんでどくしょをしている。	49.9%	26.8%	16.8%	6.5%	我が家では、本に親しむことができる 環境を整えている。	49.6%	30.1%	16.9%	3.3%	読書の習慣が定着するような働きかけを 行っている。	23.8%	61.9%	14.3%	0.0%
⑦	すすんでうんどうをしている。	62.2%	24.5%	10.0%	3.2%	我が子は、進んで運動に取り組んで いる。	49.3%	30.9%	17.6%	2.2%	進んで運動できるように工夫したり、声 をかけたりしている。	23.8%	42.9%	33.3%	0.0%

【③「じゅぎょうちゅうすすんでじぶんのかんがえをひょうげんしている。」の項目より】

1年前は、児童の「できている」が約 76%と学習面では1番低い結果でしたが、今回は約 81%と 5%の上昇が見られました。1年前の1学期は、コロナ禍でも特に蔓延防止を意識していた時期だったことを考えると、まだ制限はあるものの少しずつ自分の考えを表現しやすい授業や活動、手段・方法の工夫等が成果として表れてきた結果と考えます。特に、今年度は、他学年との交流を行ったり、長期間休まなければいけない子どもとオンラインで繋がったり、挙手しての発表が苦手でもロイロノートというノートアプリで全員が参加しやすい状況を生み出したりするなどの取組が増えています。今後も、引き続きアナログとデジタルを融合した授業や取組を考えていきます。

【⑥「すすんでどくしょをしている。」の項目より】

児童の約 77%が、「できている」という結果でした。昨年度も読書離れを懸念していましたが、なかなか向上できないでいます。4人に1人の割合で、自ら本を読むとはしていないことになります。成長段階で見ると、低・中学年は約8割が進んで読書をしているようですが、高学年になると6割程度に下がります。読書については、コロナ禍で図書館の活用が思うようにできなかったり、デジタル機器が身近になったために動画視聴を好んだり、環境の変化が大きく影響していると思います。学校では、8:30～8:40 は朝読書の時間として、毎日取り組んでいます。また、今年度は、7月に選書会を実施することができました。子どもたちが興味を持っている本を図書館に置き、引き続き、読書がより身近になるように取り組んでいきたいと考えます。

【⑦「すすんでうんどうをしている。」の項目より】

児童の「できている」は、86.7%でした。1年前からは 4%向上しています。コロナ禍での遊び方を工夫したり、自分なりに感染予防に気を付けながら運動したりしている姿はよく見かけます。一方で、近年の異常気象によって、熱中症が危険で外で思い切り遊べない日もありました。もちろん、多様な価値観や好みもあるので、休み時間に必ずしも外で運動しなければならないわけではありません。しかし、エネルギーいっぱいの子どもたちにとって適度な運動は大切なので、子どもたちが健やかに成長できるよう、学校とご家庭で今後も運動を促したり、環境を整えたりしていきたいと考えます。

※今回から、全て Forms で回答していただきました。ご協力ありがとうございました。紙面でのエラー（塗り方、無回答、複数回答等）がFormsでは無くなること、ペーパーレス化、回答・分析の時間短縮等が成果として考えられます。一方、保護者用アンケートの回答率が 93%から 72%に低下したことが課題でした。初めてのことでなかなか慣れない操作だったと思いますが、今後もFormsを活用する場面があると思いますので、慣れていただけるとありがたいです。

保護者の皆様からいただきましたご意見についても教職員で共通理解を図るとともに、次回の「学校運営協議会理事会」でも話題にさせていただきます。お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

【前期 生活面】															
	児 童	A	B	C	D	保護者	A	B	C	D	教職員	A	B	C	D
①	じぶんからすすんであいさつをしている。	58.7%	35.7%	5.0%	0.6%	我が家では、進んで挨拶するように声かけをしている。	54.4%	40.4%	5.1%	0.0%	自分から進んで挨拶ができるように働きかけている。	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%
②	いえやがっこうのルールをまもっている。	47.2%	46.6%	5.3%	0.9%	我が家では、家や学校のルールを守るように働きかけている。	54.0%	41.5%	4.4%	0.0%	家や学校のルールを守る意識を高めるように取り組んでいる。	47.6%	47.6%	4.8%	0.0%
③	そうじやかたづけをきちんとしている。	52.2%	37.8%	8.3%	1.8%	我が家では、掃除や身の回りのかたづけを自分でするようにしている。	16.5%	58.5%	22.4%	2.6%	自分から進んで掃除や身の回りのかたづけをするように働きかけ、自らも実践している。	66.7%	23.8%	9.5%	0.0%
④	こまったことは、せんせいやかぞくにそうだんしている。	44.8%	36.3%	15.0%	3.8%	我が家では、子どもの話をしっかり聴くようにしている。	41.2%	53.3%	5.5%	0.0%	子ども達に向き合い、しっかりと話を聴くようにしている。	52.4%	47.6%	0.0%	0.0%
⑤	だれにたいしてもていねいなことばではなしている。	30.4%	50.7%	15.0%	3.8%	我が家では、丁寧な言葉づかいで話すように心がけている。	30.5%	53.3%	15.8%	0.4%	誰に対しても丁寧な言葉遣いで話すよう指導するとともに、自らも実践している。	57.1%	38.1%	4.8%	0.0%
⑥	にがてなことにもじぶんからとりくんでいる。	42.5%	40.1%	14.5%	2.9%	我が家では、苦手なことにも努力する姿勢を大切にしている。	36.8%	51.5%	10.3%	1.5%	子ども達が、苦手なことにも前向きに取り組めるような手立てを、常に意識して実践している。	33.3%	61.9%	4.8%	0.0%
⑦	じぶんにはがんばっていることがある。	74.9%	20.1%	4.7%	0.3%	我が家では、子どもの頑張りを認め、伝えるようにしている。	68.4%	26.5%	5.1%	0.0%	子どもの頑張りを認め、積極的に伝えるようにしている。	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%
											「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努めている。	52.4%	47.6%	0.0%	0.0%

【③「そうじやかたづけをきちんとしている。」、④「こまったことは、せんせいやかぞくにそうだんしている。」の項目より】

この2つの項目については、大人と子どもにギャップが生じていることがうかがえます。

③「そうじやかたづけをきちんとしている。」については、子どもの「できている」の 90.0%に対し、保護者 65.0%、教職員 90.5%という結果でした。学校では、掃除の時間が確保されていますが、ご家庭ではなかなかそういうわけにはいきません。しかしながら、学校での様子を見ると、床にいろいろな物が落ちていたり、落とし物や忘れ物があつたりするため、学校でも声をかけていますが、今一度、ご家庭でも自分の持ち物の管理についてお声かけください。

④「こまったことは、せんせいやかぞくにそうだんしている。」では、逆に、児童の「できている」が 81.1%に対して、保護者及び教職員の 90%以上が子どもの話を聞くようにしていると答えています。もしかして、困ることがないということで C や D を選んでいることがあるかもしれませんが、もしかして相談できない子どもに対して周りの大人が気づいていないということがあるかもしれません。この機会に、子どもたちの様子について「おや？」ということがないかアンテナを張り、随時連絡を取り合えたらと考えています。

【⑥「にがてなことにもじぶんからとりくんでいる。」の項目より】

児童の「できている」が 82.6%と、昨年度の 74.8%に比べると 5.8%の向上が見られました。苦手なことは、大人子ども問わず、やりたくないことだと思います。しかし、どうせするなら前向きに捉えて実行する力、苦手なりにも少しは頑張る力、得意不得意ではなくすべきことをする力、時には回避する力等、遅しく成長するためのチャンスはそこにあります。周りの大人がポジティブな声かけをして、苦手なことにも挑めるように応援していきたいものです。

【⑦「じぶんにはがんばっていることがある。」の項目より】

昨年度まで、⑦は「じぶんのよいところがいえる。」という項目でした。「できている」と選んだ児童は 68.8%であり、「よいところ」と一言と言っても、友だちと比べてみたり、自分でまだまだだと思っていたり、自分ではなかなか答えにくかったのではないかという反省から、今年度から、「じぶんにはがんばっていることがある。」と文言に変更しました。結果、児童・保護者・教職員とも「できている」は 95-100%となり、頑張ろうとする環境や態度がおおよそ整っていることがうかがえます。自由記述欄でも、結果ではなく頑張ったことを褒めることを書かれていた方がいました。今後、子たちが安心して頑張れるよう、応援していきたいと考えます。

○今回のアンケートでは、保護者の皆さんに「しないといけないことを前向きに取り組めるようにするために、ご家庭で工夫や意識されていること」について書いていただきました。数多くの記述をありがとうございました。一部になりますが、まとめて紹介させていただきます。

- ・「しないといけないこと」をすることが、将来自立して生きていく時にどのように役立つのか、具体的に伝えている。
- ・後の楽しみやご褒美をつくる。した後に楽しいことが待っていることを伝える。
- ・ご褒美はつくらない。
- ・「〇〇はまだ出来ないんじゃない？（挑発）」「やってみたら？」「やってみよっか。」「～しよっか。」
- ・やればできる人は偉いなあと褒めながら声かけする。「とにかくやってみたら？」と声かけする。促すタイミングを考える。前向きで明るい言葉かけをする。
- ・できたら褒める。思い切り褒める。小さなことも褒める。（結果はどうであれ）頑張ってやり遂げた事に対して褒める。
- ・しないといけないこと自体を目的にせず、自分のしたいことへのプロセスの 1 つとして伝える。
- ・1 日の学習計画・一覧表を子供と一緒に立てて見通しをもち（可視化）、出来たか振り返る。子どもに自分で決めさせる。
- ・ON と OFF をしっかりつけるように心がけている。しないといけないことをしてから、したいことを思い切りさせる。
- ・あまり「やりなさい！」と言わないようにする。思い出させる程度に声かけをする。命令口調にならないようにする。
- ・やる前からできないとか決めつけないように声をかける。まだ知らないだけで、つまらないと決めつけることはもったいないことだということを伝えていく。
- ・前向きに取り組めないことを無理に前向きにするのではなく、後ろ向きでも取り組めるよう励まし、後ろ向きであつても取り組めたことを評価する。
- ・子どもが決めた事を行動しやすい環境（気持ちよく勉強できるスペース等）を整える為の手助けや助言に留める。
- ・「しないといけない」とは伝えず、（いつまでにするか等）自分で考えさせる。自分で選んだことは人のせいにはさせない。
- ・する意味、理由を話す（子どもの考えを引き出す）。方法やシチュエーションを変えて、機会があれば何度でも。
- ・どんなことでも楽しんで取り組む姿勢を親が見せること。子供の前で文句や愚痴を言わない。
- ・寄り添う。一緒にする（徐々に1人で）。できる限り工夫したり、遊びの要素を取り入れたりして楽しみながらする。
- ・「できない理由」ではなく「何があればいいのか」と前向きな方向で問い、そのサポートをする。ポジティブな声かけをする。
- ・子どものサポートに親が十分な時間を使えるようにしている。親子とも時間と体力に余裕をもてるように意識している。
- ・一番は本人がやってみたいという意志を尊重する。
- ・子どもが決めた事に口出ししないことで、自立を促し、子ども自身がどのように考え行動するかを信じて待つ。